

【氏名】 大澤 貴美子

【所属】(助成決定時)

University of Wisconsin-Madison

【研究題目】

現代日本における『愛国主義』の女性たち:政治、ナショナリズム、ジェンダー

【研究の目的】

2000年代前半から、ナショナリズムと保守的な性別役割規範を政治の場に広めようという目的で女性がグループを作り始めた。これらのグループは、1990年代後半頃から顕著になり始めたより広範な保守主義およびナショナリズム運動の一部と見ることができるが、女性が保守ナショナリズムを標榜する運動に参加することは興味深いパズルを提示する。なぜなら、女性の保守ナショナリズム活動への参加は戦後の日本においてはあまり顕著なものとして認識されてきていないこと、保守ナショナリズムは女性の主たる役割を家庭や地域などの私的領域に規定する傾向があること、そして日本は他の先進諸国と比較すると女性の公的な場への参加のレベルが低いということを考えて、何故この時期に、女性が保守ナショナリズムのための政治活動に積極的に参加するようになったのかという問いが生じるからである。本研究はこの問いを、「ナショナリズムとジェンダー」及び「社会運動(Social Movement)」の理論と分析枠組みを使って説明することを目的とする。

【研究の内容・方法】

「ジェンダーとナショナリズム」および「社会運動」の理論と分析枠組みから、以下の3つの仮説を導き出した。保守ナショナリストの女性たちが彼女たち自身のグループを作ったのは、(1)政治的文脈が変化し、政治信条に関わらず、女性運動および女性の政治参加がより受け入れられる、あるいは、女性の政治参加を奨励するような政治環境が生まれたためである。(2)日本の保守ナショナリズムの言説は伝統的に女性グループの形成および政治参加に寛容あるいはそれを奨励するようなものであり、それが政治的文脈の変化によってさらに強調されるようになったためである。(3)社会的な状況の変化を受けて、保守ナショナリストの女性達自身が保守ナショナリズムの内容を再解釈して、保守的な価値を保ちながらもより積極的な政治参加を可能にしたためである。

これら3つの仮説を検証するために、本研究は、二つの保守ナショナリスト女性グループの比較実証研究を行う。この二つのグループはほぼ同時期に作られているが、異なる政治活動形式を採用している。一つのグループがメンバーの政治教育を通して彼女たちが地方議会に政治家として進出することを目指しているのに対し、もう一つのグループは直接・間接的な政治家へのロビー活動を主たる活動形式としている。この類似と相違は、上述の仮説検証のための有用な機

会となる。ほぼ同時期に作られたことは、政治的文脈あるいは保守ナショナリズムの言説という外的要因が作用していることを予期させるが、異なった活動形式を採用していることは、女性たちの主体的な状況の理解および意思決定が、彼女たちの最終的な行動様式に強い影響を与えていることを予期させるからである。

仮説検証のために、政治的文脈、保守ナショナリズムの言説を、一次資料と二次資料を用いて分析し、なおかつ、上記二つのグループのメンバーへのインタビューと、それぞれのグループにおける参与観察を行う。

【結論・考察】

保守ナショナリズムの政治活動に参加している女性たちへのインタビューと彼女たちが参加している諸グループへの参与観察を行ったが、その過程で、研究計画当初には予期していなかった二つの事態に直面した。一つはインタビュー対象者がなかなか集まらず、インタビューデータのみでは有効な一般化が難しいことが明らかになったことであり、もう一つは、上記の二つのグループのメンバーシップは必ずしも明確に分かれておらず、インタビュー対象者のうちの多くが両方のグループに属していることが明らかになったことである。最初の事態に対応するために、研究の過程で、出版物などに基づく政治的文脈、保守ナショナリズムの言説に関するデータの収集へと比重を移した。また二番目の事態は、二つのグループの比較というものを難しくした。そのため、現段階では、本研究は、保守ナショナリズム政治活動に参加している女性個人や特定のグループに焦点を当てるといった研究の方法から、より大きな政治的・言説的文脈に着目することで、なぜ2000年代前半から女性の保守ナショナリズムへの政治活動が盛んになったのかという問いに答える方向へと移行してきている。